

世界初 海外に蕎麦道場できる！

台湾窓口担当 山本 剛

◎ 令和元年の台湾訪問時に、私と加藤専務理事(当時)が蔡二林鎮長(日本の市町村長)を表敬訪問し、同地での蕎麦打ちの普及には、①日本から持参しないでも、自前の打粉を確保すること、②蕎麦道場を開設すること、の2点が不可欠であると要請していました。コロナ禍のために遅れましたが、これを受けて、二林鎮農會(日本の農協)が令和2年末に打粉取りの機械を日本から輸入し、この度、二林斗苑休閒農業區發展協會(吳敏賢執行長)が蕎麦道場を開設する運びとなりました。

◎ これに先立ち、今年5月7日から10日に、吳執行長を団長とする7名の訪問団が、西日本ではトップクラスの規模と宿泊施設を持つ有漢セミナープラザの蕎麦道場等を視察し、必要な道具類などを点検し参考としました。また、体験宿泊、蕎麦打ち、蕎麦料理づくり等も行ってもらいました。



◎ 今回開設した二林蕎麦道場は、農會分室の2階部分(元事務室)を借り上げて整備したもので、打台10台を配置した十分な広さ(全麵協本部研修センターを少し大きくした規模)を確保したもので、男女の専用水洗トイレのほか、厨房もあり、冷房完備。土足禁止で、窓の多い明るい室内は、清潔感を保有しています。この整備については、台湾政府からの農業振興の補助金が投入されています。

副縣長(日本の副知事)を始めとした農業関係者の

◎ 道場開きは、8月5日の午前10時から、参加のもと盛大に開催され、挨拶、看板除幕、蕎

麦及び蕎麦料理(蕎麦寿司、蕎麦茶碗蒸し、焼き蕎麦パン、そばがき善哉)試食、蕎麦打ち体験などが行われました。

また、午後からは一般参加の蕎麦打ち教室が開かれ、種講師の指導のもと、10組のファミリーが初めての蕎麦打ち体験をして、嬉々としていました。彼らは、それぞれ打った生麺や蕎麦料理を持ち帰りました。



体験教室 2



体験教室 3



開幕式

◎ この日の行事については、マスコミが多数取材に訪れ、ネットでも広く報道されましたが、今後の運営に

については、広く周知を図ること(例・ホームページ)と、体験者に満足を与える工夫が不可欠で、二林鎮の新しい農業観光の一つに定着するよう、サポートを続けたいと考えています。

◎ 今回の訪問については、募集期間が短く、また現地集合にしたこと、現時の物価高騰の中で、円安による旅行費用が増大していることなどから、応募者が極端に少なく、私と大内五段だけでの訪問になりましたが、団体としての交流を目指すなら、次の冬の部(11月25日を軸)では、もう少し参加が増えることを期待しています。

なお、海外初の段位認定会の開催については、この冬にするかどうかを現地で検討中ですが、できない場合は、来年の夏に実施する方針です。

以上